

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

社会人学生としての体験談

通信教育部社会福祉学科卒業生 白鳥 貴寛

1. はじめに

私は高校を卒業してから別の大学で心理学を専攻して学び、社会人となりました。その後、2020年に通信教育部社会福祉学科に3年次編入し、2022年の春に第34回社会福祉士国家試験に合格し、卒業をすることができました。当時の私は高齢者福祉の分野で業務に携わっておりましたが、現場で様々な方の声を聞いているうちに、個々人が抱えている問題の背景は家庭の問題や経済的な問題など、多くの要因があり、根拠のある支援を行うためには経験だけに頼るのは限界があると考えて、再度社会人学生として学ぶ道を選択しました。

2年間で卒業し、資格取得を果たしているところだけを文字にすると、順風満帆のように見えるかもしれませんが、社会人として仕事をしながら大学生として学びの道を歩むことは容易くはありませんでした。これから記載することが社会福祉士を目指す皆様の参考となれば幸いです。

2. 学ぶ環境を整える

私が社会人学生として最も悩んだことは「如何にして学ぶ時間を確保するか」、「仕事を休んで実習に行くことができるのか」ということでした。この双方を解決するために、実習に行くことを認めて貰える近場の職場へ転職しました。これにより、通勤にかかっていた時間を学ぶ時間にプラスすることができただけでなく、確実に実習に行くことができるようになり、安心して学ぶ環境を整えることができました。

次に問題となったのが当時はコロナ禍であったということです。現場で支援をしている以上、仕事をしながらリスクを避け、学ぶ必要がありました。しかし、せっかく2回目の大学生となれたのに、他者との交流の機会がないままの学びではもったいないと考え、社会福祉士の受験に必要な科目でオンデマンド・スクーリングが開講されている科目はすべて受講しようという方針で学習を進めることにしました。結果としては、この選択が後々の合格に繋がったと思っています。オンデマンド・スクーリングは同じ時期に複数の科目が重なると大変でしたが、締め切りが早い順から受講するように心掛けて学習をすることで、結果として卒業試験を除く選択必修科目と選択専門科目のすべてをオンデマンド・スクーリングで受講することができました。レポートの作成については、はじめは苦勞しましたが、仕事の休憩時間や夜勤の待機時間をうまく活用し、テキストや本を読んで要点をメモするようにして、帰宅してからの時間や休みの時間にメモを参考にレポート作成に取り掛かるようにするスタイルで問題なく作成することができました。

しかし、この学習の過程も順風満帆だった訳ではなく、失敗もありました。受講期間が限られているオンデマンド・スクーリングの受講とレポートの作成の両方を2年間で終わるように同時進行で進めるスケジュール管理は常に完璧だった訳ではなく、Withに記載されていた期限を見落とし、実習の受講に必要な科目の事前レポートの提出を期限間近ギリギリで気づき、急いでレポートを作成しての提出となったこともありました。社会人学生は時間が限られており、仕事との二足のわらじで余裕がなくなりがちですが、それでも、どんなに多忙な状況下であっても心に余裕のある時間を必ず作り、それから各種締め切りを確認した方が良かったなと痛感しました。

3. 万全の態勢ではなかった社会福祉士国家試験

単位の取得を続けて4年生となり、最短で社会福祉援助技術実習を受講することができました。2022年の実習はコロナ禍の影響もあってオンラインでの実習となりましたが、担当の教員や同じ道を歩んでいる同期の学生と話す場を多くもてたことで、コロナ禍ならではのかけがえのない有意義な学びの時間となったと思っています。実習を終えた後もスクーリングの受講やレポートの作成は続き、卒業試験を受けなければならないこともあって余裕のない状況は続いていました。そんな中ではありますが、国試対策講座は受講していました。今思えば、この選択も合格に繋がる結果となったと思っています。

スクーリングやレポートを全て終えた時は既に12月中旬となっている時期でした。国家試験までは1か月半程しかなく、問題集も手についていない状態。今から満遍なく試験勉強をすることは難しいと考え、出した結論はこれまでのスクーリングや国試対策講座を振り返りながら重要と触れられた点に集中して学習を進めていこうという方針でした。過去問は本ではなく、隙間時間でもできるようにスマートフォンを使い、アプリを活用して解くようにしていました。しかし、結果としては試験当日まで過去問を1周することすらできていませんでした。

試験当日は、不合格だったとしても、来年に繋がれるように受けてこようという気持ちで受験をしました。結果は合格点ギリギリに近い点数で、1点しかとれていない科目もありましたが、諦めずに受験したことで合格することができました。運に助けられた部分もありますが、試験勉強が十分にできていない状態の受験でそれでも合格に届くことができたのは、スクーリングの受講で聞いたことやレポートで頑張ったところ、国試対策講座を受けていたところが記憶に残って正答に導けた問題が多かったことが結果を左右したと思っています。

4. 最後に

2年間を振り返ると、息をつく暇もないくらい締め切りや学習に追われていたなと思いますが、私自身を支援者として大きく成長させた2年間になりました。これから学ばれる皆様も、時には思うようにうまくいかないことがあるかもしれません。そんな時は自分の学ぶ環境はどうだろうか、万全ではないにしろ、今からでもできることはないだろうかと考えることで道が開けることがあるかもしれません。苦難や失敗に挫けず、東北福祉大学での学びの時間を大切にお過ごしください。心から皆様のご健闘をお祈りしております。

